

諸人こぞりて

この号が皆様のお手に届くころ、街はクリスマスモード満点の状況でしょう。その中で流れる、このクリスマスソングにビクッと反応してしまう貴方は、きっと立派な職業病なのでしょう。今回はパチスロで採用された、この曲にまつわる昔話を少々したいと思います。

愛された証、複数機に

表題の曲は業界人ならご存知、山佐から1990年に登場した超名機「スーパープラネット」のビッグボーナスに採用されていた曲です。スーパープラネットは、大量リーチ目による出目の楽しさや、各動作

時に「ノッカー音」と呼ばれる独特の操作音を用いた珠玉の名作です。ですが、実はこの後1991年に登場した「ホールインワン」でのシングルボーナス・ビ

ッグボーナスにも同曲が搭載されています。複数機に楽曲が採用ながらも、「諸人こぞりて」スーパープラ(スーパープラネット)と確立されたのは、それだけ同機が多くの方に愛された証左とも言えます。

クラシックの黄金時代

ちなみに、この時代は今なお語り継がれる名曲が多く思い出されます。

例えば1988年登場のアストロロイナ1、1989年登場のビッグパルス採用の「アマリリス」、フランス民謡として有名なこの曲はJR赤羽駅などの発車メロディにも採用されました。ちなみに現在はエレファントカシマシに楽曲が変更されており、パチスロファンとしてはやや複雑な心境ですが、そんなことを考えているのはきっと私一人でしょう。他にも、88年登場のオリンピア「バニーガール」では「草競馬」。これは「おおサンナ」ケントッキーの我が家」などを作曲したアメリカの有名作曲家ステイブ・

フォスターの名作です。アメリカ音楽の父と呼ばれる



山佐の3号機「スーパープラネット」。特徴的な7のデザインは日活興業との最後の提携機種であった「フルーツチャンス」レギュラー絵柄の逆V形状に似ている。©YAMASA



山佐の最新作「スーパープラネットSP」。クラシカル版からネオプラネット版まで「諸人こぞりて」を堪能できるのが嬉しい。©YAMASA

氏の曲は誰もが一度は耳にしているものばかりです。そのほか、日本民謡でも1990年岡崎産業から登場した「チャレンジマンAZ」ではビッグボーナス時に「おもちゃのチャチャチャ」、クラシックでもシヨパンの「ノクターン」がパル工業から1987年に登場したニューペガサスで流れる等、著作の

関係からこれらの採用が多くありました。結果として、耳慣れた曲は機種のイメージを形作り、今尚語られる「名機」を形作る重要な一部となったのです。**プラネットの系譜、再び**

話は戻り、スーパープラネット登場以降、山佐は高性能なFM音源の採用後「音楽の山佐」「山佐型リーチ目」等アイデンティティーの確立と共に進んでいきます。そして表題の「諸人こぞりて」も2002年の「ネオプラネットXX」では、見事なアレンジで復活を果たします。当作に感動したユーザーも多く、2018年の最新作「スー

パープラネットSP」でも「ネオプラ版諸人こぞりて」が再び採用されました。それほどまでに、この楽曲はユーザー・メーカー双方から大事にされているのです。

昨今のパチスロでは出目の演出や音楽等、パチスロ本来の楽しさも長期稼働の重要な要素の一つとして考えられるようになりました。AT機のような差玉や派手さは無くても、稼働が一巡した後に、じっくりと長く楽しんでもらい、ホールも投資回転率を抑えて経営効率を上げる。そのような視点からもノーマル機やノーマル+RT付加機の運用は重要です。真に評価を下すのは投資家ではなくユーザーであることを今一度認識する必要があるでしょう。最後になりましたが、本年も拙稿にお付き合い頂き誠にありがとうございます。

皆様に、そして業界に少しでも良き新年が訪れますように。(天和田敏男)

クリスマスの名曲ですが